

# 災害時における柔整師の役割と多職種連携～大田区の災害訓練に参加して～

○亀岡 達也（かめおか接骨院、大田支部）

Key words : Disaster、Emergency medical aid station、Medical relief activities

東京都大田区では、近い将来起こるであろう災害に備えるべく松原区長を中心として各種災害対策会議を設け、被害想定の見直しや防災訓練、避難訓練等を重ねてきたが、我々大田区柔道整復師会も災害医療対策委員会のメンバーに加わり、各種訓練に参加して多くの貴重な体験をすることができた。この体験をもとに災害時における柔整師の役割と、多職種との連携について考察したので報告する。

## 1. 大田区の被害想定と緊急医療救護所

東京都が平成24年に発表した東京湾北部地震（冬の夕方18時、風速8mでマグニチュード7.3、最大震度7を想定）による人的被害想定によれば大田区では死者1073人、負傷者10412人（重傷者1855人）となっている（図1）。



図1

大震災後には病院に傷病者が殺到して病院の機能が麻痺するため、本来ならば救える命が救えなくなってしまうと予想される。そこで、医師、薬剤師、看護師、柔道整復師など医療関係者と行政が病院門前に緊急医療救護所を設置し、トリアージや軽症者の処置を行うことになっている。

## 2. 緊急医療救護所訓練に参加して

大田区では11カ所の緊急医療救護所と3カ所の学校医療救護所が設置されることになっているが、我々柔道整復師会も積極的に訓練に参加した。

我々柔道整復師が行ったことは主に、①救護所の設営準備（テント設置、机、イスなどの運搬） ②トリアージの補助 ③軽症者の処置 ④患者さんの搬送などである。

現場では医療責任者、病院責任者、行政の責任者が決められ、我々柔道整復師も責任者を決めて、それぞれの指示に従い行動した（図2、写真1、2）。

## 緊急医療救護所での 柔道整復師の役割

- 緊急医療救護所の設営準備  
行政の担当者を中心にみんなで協力して行う
- トリアージの補助  
一次トリアージ、トリアージタグの記入など
- 軽傷者への応急処置  
医師、看護師、柔道整復師ほか
- 患者さんの搬送  
病院内または他院への患者さん搬送

図2



写真1



写真2

### ①救護所の設営準備

大田区の職員、病院関係者、ボランティアらとともにテントの設営を行ったが、設営経験者がいないこと、マンパワー不足等により時間がかかってしまった。

### ②トリアージの補助

トリアージは主に医師、救急隊員が行い、我々を含めた医療従事者がトリアージタグの記入や患者さんの誘導などの補助を行った。しかしながら、簡易な一次トリアージ（例えば、歩ける人は緑の軽症者として誘導する）であれば我々柔整師でも可能であることがわかった。

### ③軽症者の処置

軽症者（緑のエリア）の処置は柔整師で対応できることがほとんどであった。しかし処置を行う場合は医師の指示によ

り行うのが原則であり、医師が不在の時以外は勝手に処置をしないよう徹底した。

#### ④患者さんの搬送

救護所には軽症者から重傷者までたくさんの患者さんが集まって来るため、病院内への搬入だけでなく他院への転送もあり、多くの人材を必要とし、我々も搬送作業に参加した。

### 3. 評価

大田区災害医療コーディネーターをされているきはら整形外科院長木原正義先生と大田区総務部防災危機管理課の長沼宏幸氏より評価をいただいたので要約して掲載する。

『緊急医療救護所では多職種の連携が上手く機能することで多くの負傷者を助けることができるようになります。柔道整復師が担う役割は多岐にわたり、医師をはじめ他の職種の方々からも大きな期待が寄せられております。皆様が医師の指示のもとに軽症者の処置を手伝うだけで、医師は「救うべき命を救う」べく、中傷者、重傷者の処置に専念することが出来るからです。

これからも災害時の医療を担う多職種のメンバーの一員としてご活躍されることを期待してやみません。』

### 4. まとめ

大田区の災害訓練を通じて大変貴重な体験をすることができたので報告した。

訓練において病院の医師と従業員、近隣の開業医、薬剤師、大田区の職員、そして地域住民の方々と直に顔を合わせでお話をすることができ、それが私達柔整師にとって大きな宝物になっている。

これからも災害訓練や講習会に積極的に参加し、想定された被災者を一人でも多く支援することができるよう努力したい。